



NO.403

R3年2月1日

発行

〒869-1217

熊本県菊池郡

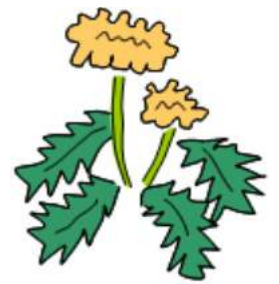
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



宣言下においては基本的に中止。

施設の対応

- ① N95マスクやガウン、手袋、フェースシールド、ゴーグル等を約二カ月分購入し備蓄しています。
- ② 帰宅、面会は当面中止。
- ③ 行事は規模や対象を変えてほぼ実施。コロナ禍において特別に企画したイベントを実施。

三気の里のコロナ対策



理事長 松田 健

コロナ禍での三気の会・三気の里についてのコロナ感染症対策についてご報告します。

職員の対応

- ① 出勤前に検温。異常があれば施設長に報告。休んでもらう。出勤時に検温表に記載。
- ② 職員は業務中、それ以外でも三気の里敷地内ではマスク着用。勤務日、休日に関係なく外出時はマスク着用。家でも家族の方にもマスクの着用を奨励（おうちマスク）
- ③ 一日の行動記録を各自記載し、残しません。 구글タイムラインでも可。（例…いつ、どこに行って、どうした、誰と会った等） ↓ ↓ ↓
- ④ 事務所、休憩室、スタッフ室は光触媒

除菌脱臭機を設置しています。作業棟（各班）、スタッフ室、CHには超音波加湿器を設置しています。

⑤ 一日に三回手すりやドアノブ、職員の手等を次亜塩素酸ナトリウムにて拭きあげています。

⑥ 支援員以外の職員は距離を保って食事をしていません。（食事中会話禁止）

⑦ 休憩室では換気し、距離を保って利用しています。定員は4名です。飲食中は会話禁止です。

⑧ 職員の会食も自粛してもらっています。熊本県の緊急事態宣言下において職員が遠出（緊急事態宣言が発令されている地域「都道府県独自の緊急事態宣言も含む」）しなければならない時には（事前相談が必要）、帰ってきた際にPCR検査をし、陰性であれば出勤とします。（検査費は施設負担。症状がある場合は公的負担）。職員の家族が前述の地域から帰省される際も同様とします。知人や親戚との会食の場合は報告し許可を得てください。基本的に自粛

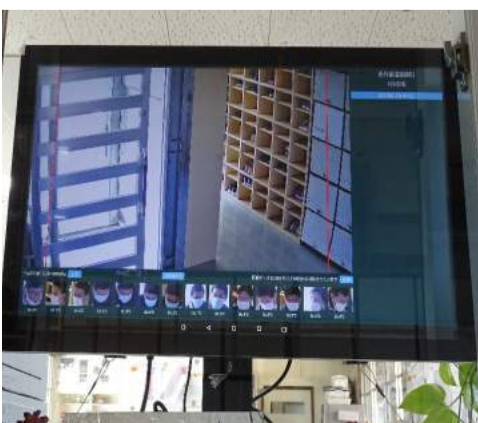
⑩ コロナ感染症マニュアル（改訂版）を令和三年一月十二日に配布しました。コロナ対策BCP（改訂版）を令和三年一月二十三日に配布しました。

利用者の皆さんへの対応

- ① 食事前の手洗い・うがいを徹底。
- ② 受診時はマスク着用。帰園時は手指消毒。
- ③ 一時間毎に作業棟の換気。
- ④ 検温一日に三回実施。玄関に大人数を検温できるモニターを設置。（写真①）
- ⑤ ローソンの日に、ソーシャルディスタンス、マスク着用、手指消毒の訓練を行っている。（皆さんかなり上達されました。）
- ⑥ 利用者の方の外食、外泊、外出しての買物等は自粛してもらっています。ドライブ・散歩は実施。班レクレーションは、貸し切りや人との接触を避けることを条件に実施。しかし、緊急事態

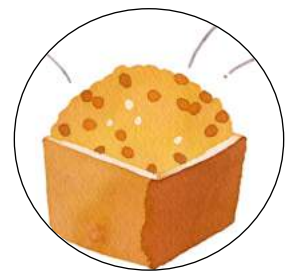
職員が持ち込まないというプレッシャーに耐えています。家族からの心遣い・想いがあります。利用者さんの頑張りがあります。三位一体となって苦境に耐えています。明確にいつまでとは言えませんが、今が一番苦しい時だと思います。力を合わせ乗り越えていきたいと思います。

写真①





2月



1班：「明日の活力に」

今年度、4月に入職し、早1年が経とうとしています。どの班もそうですが、1班の皆さんは毎日集中して作業に取り組まれています。

そのような中、12月23日に、今年度初めてとなる1班でのレクリエーションが実施され、芦北町にあるステーキ屋さんに出かけました。片道2時間弱の道のりを、高速道路を利用し現地まで向かいました。週末のドライブ以外では、利用者の皆さんと出かけることが初めての経験で、不安でいっぱいでしたが、高速道路でのトイレ休憩もとてもスムーズに済まされ、皆さんとても落ち着いて小旅行を楽しまれました。ステーキ屋さんでは、コロナ禍の中、離れを貸し切ることで、安心して食事を楽しむことができました。また、園内ではあまり触れることがない、瓶のジュースや目の前の鉄板で焼かれたステーキに、利用者の皆さんはどのように反応されるのだろうかという心配もありましたが、皆さんとても楽しんで食事をされていました。そして、何よりお肉がおいしかったです。きっと利用者の皆さんは、明日からも作業を頑張ろうと思われたのではないかと思います。

支援員 中畠 元

2班：「1年が経って」

去年の4月に入社致しました。初めの頃は分からないことだらけでしたが、班の皆さんは温かく迎え入れて下さいました。最も驚いたことは、働き者の皆さんの姿です。スタッフがネット作業の準備を始めると、皆さん一斉に手袋、帽子の準備を始めます。「今から頑張るぞ!」というやる気を感じることができる瞬間です。そのやる気に引っ張られて私も気合が入ります。担当のMさんは、ネットがなくなるとスタッフの肩をトントン。カゴを指さし「ネット下さい!」と元気よくアピールされます。とても積極的です。また、私が見落としていたことがあったとしても、利用者さんが教えて下さいます。そうやって、お互いに切磋琢磨できる場所も2班さんの魅力です。そして、楽しむことにも全力です。担当のTさんはとっても楽しみ方が上手な方です。レクリエーションのホテルでの食事会では、お気に入りの席を見つけると、食後、優雅に座って過ごされていました。その時を誰よりも楽しめる、そんなTさんと一緒に活動すると、本当に楽しい1日になります。

コロナで制限された生活が続く中でも、皆さんがたくさん笑顔になれるよう、頑張っています!

支援員 伊藤 愛理

3班：「新たな仲間」

12月より3班に新しい仲間が加わりました。以前、実習で来られ昨年3月に学校を卒業したAさんです。事前の聞き取りから「視覚支援が有効」、「待ち時間が苦手」などの情報があった為、3班作業棟の椅子やテーブルの位置を変えて視覚的な場所の配慮を行い、興味がありそうな物(アンパンマン)を使用して自立課題の作成などの準備を行いました。

利用初日は(私が)とても緊張しましたが、スケジュール表の準備もしていた為、流れに沿って行動でき、自立課題や作業もスムーズに取り組めました。少しずつ三気の里での生活に慣れていってほしいです。これから3班の一員として、一緒に頑張っていきたいと思います。

支援員 友尻 陽也

4班：「ほっと一息」

年明けてしばらくたったころ、4班の皆で地元の神社に初詣に行きました。すでに学校や仕事も始まっていたので、他に参拝客はおらずコロナ禍ではありましたが、ゆっくりと参拝が出来ました。

11月のレクリエーション以来の外出となりましたので、皆さんはお参りに行ったこと、寒かったこと、参拝後に温かい飲み物を飲んでうれしかったこと等を一緒に行けなかった私に話してくれました。それぞれに、「病気をしませんように」「作業を頑張れますように」「おうちに帰りたい」等お願いをされたようで、私もあたたかい気持ちになりました。私の担当するKさんとは「コロナがおさまったら一緒にお出かけしましょうね。」とよく話をしており、「一緒に〇〇を食べたい」、「〇〇を買いに行こう」など既にたくさんの予約がいっぱいでとても楽しみです。コロナ禍の中、ちょっとした出来事を楽しみ、喜ばれる4班の皆さんと一緒に頑張っていこうと思います。

支援員 植野 希

5班：「コロナの終息を願って…」

年が明けて仕事始めの日「あけましておめでとうございます」と新年の挨拶を皆さん元気にされています。仕事始めということで毎年恒例の初詣に出掛けました。コロナ感染拡大下でありましたが、人が少ない阿蘇窪田神社に行き清めてもらいました。その後、お賽銭を入れて手を合わせてお願い事をされています。

皆さんどんなお願い事をされたのかな？寒くなってコロナが広まるばかりですが、この状況だからこそ今しか出来ない楽しいことを沢山計画して出来たらいいなと思います。また、早くコロナが終息することを願うばかりです。

支援員 西本 綾子

「衛生委員会」

衛生委員会は、快適な職場環境の維持、推進に向けて、有害な因子を排除し、労働者の健康障害を防止する為に、積極的な心身両面における健康の保持増進を図ることを目的としています。これまでも、職員の休憩スペースの整備や健康診断、労働者のストレスチェック等々に取り組んできました。昨年からの新型コロナウイルス感染症の流行により、三気の里でも感染拡大防止体制を取り、利用者の方の生活において、帰省や外出等の制限を設けさせて頂いています。

私たち支援員は利用者の皆さんの生活全般の支援をすることが仕事です。利用者の方々の手を取って、直接身体に触れて、身体を支えて支援する必要があります。ソーシャルディスタンスを保ってできる仕事ではありません。だからこそ職員は、自分自身が罹患しない、施設に持ち込まないことを第一に、この一年間仕事以外の生活でも感染防止を常に考えながら生活してきました。昨年末から感染拡大し、まだまだ先の見えない不安と緊張を抱えた生活が続くことが予想されます。一人では耐えられないこの不安や緊張も職員全体の組織として助け合い、協力することで乗り越えてきました。そしてこれからも見えない敵「コロナ」に立ち向かうべく、衛生委員会としてできることを考えていきたいと思えます。

療育課長 岩田 幸児



多子亭

【1班】

芦北町のステーキキ屋さんで、美味しいお肉を堪能しましょうというものでした。普段から行っているマスクの着用、手指消毒も戸惑うことなく行うことができ、皆さんの笑顔を見ることができ、皆さんの良い機会となりました。

【2班】

玉名にある司ロイヤルホテルのレストランにて貸し切りという形でコース料理を堪能しました。食後、近隣を散策しました。そこでも沢山の笑顔を見ることができ、皆さん気分転換になったのではないかと感じました。

【3班】

芦北のダロープ亭というステーキ屋さんに出かけました。今年度、制限の多い生活なため、美味しいものを食べようということとで企画しました。実は昨年続き2回目でしたが、変わらぬ美味しさで感動を味わうことができました。久々のレクリエーションで利用者さん、スタッフ共に楽しい一日となりました。



【4班】

菊池市にある「清流荘」に行きました。広い和室にテーブルを準備して頂き、車いすの方や立ち上がり方が困難な方も、安心して利用が出来ました。

ランチでは大きな花籠の中に、天ぷらや刺身、茶碗蒸し、デザートなど色とりどりの和食が並んでおり、ゆっくりと様々な料理を味わいました。久しぶりの遠出でリフレッシュし、お腹も心も満たされました。

【5班】

「フランス食堂 ルブリアン」というお店で、フルコースを食べてきました。前菜・スープ・サーロインステーキ・デザートまでとてもおいしく、利用者さんもスタッフも大満足でした。

その後、県庁にイチョウを見に行き、ルフィー像の前で写真を撮りました。おやつはパフェをテイクアウトし景色のいいところで頂きました。感染対策をしっかりと行うことで、安全で楽しい外出ができました。



療育雑記

「コロナ禍での支援

〜改めて人的支援の

重要性を感じる〜」

主任 石丸 直美

昨年1月末から人との接触を極力控えなければいけない生活となり、この1年に様々なことがありました。様々な思いを持ち過ごしてきました。

今まで思いをよせてきた家族など、関係が密であった人々との関わりも難しくなり、日常生活の基盤はそう大きく変わらな
いまでも、何かが足りない、しつくりこないといった思いで生活をしてこられていると思います。
昨年末から利用者のひとりが入院をされています。コロナ禍では、付き添い、面会ができず、医師、看護師さんにお任せするしかない状況下で治療を受けています。その方は今までも、誤嚥性肺炎や怪我で入院をされてきました。その都度三気の里のスタッフが2名ずつ24時間体制で付き添いを行い、治療を受

ける態勢、安静を保つ態勢を整え、栄養を摂り排泄を促すことを行い、病気やケガを乗り越え、三気の里の生活へと戻ってきました。一旦睡眠、排泄、食事のサイクルが崩れると、なかなか元には戻らないため、その都度出来る限りサイクルを崩さないことに努め、治療を受けるうえで仕方なく食事の中断等あった後には、施設では出来ない治療や医療行為を何とか入院中に克服し、その後施設に戻ってからあの手この手で回復のための段階を踏み、時間をかけて施設で可能な生活へと戻してきました。しかし今、私たちは退院に向けて入院中に行ってきた支援が出来ず、数値上は改善し、身体機能が食事に摂取、服薬等が可能であるのに、それが上手くいかず入院が長引いています。そこで再度病院に何度も足を運び、重度の行動障害を併せ持つ人々の入所施設で勤務する私たちは、医療者同様に感染対策を行っていることを伝えました。

出入りする人間を限定するの
で、わずかでも面会をさせてもらい、様子を見せて欲しい。それ
して気付きや治療の補助となる
方法を伝えさせて欲しいとお願い
をしました。このお願いは入院
初日から行っているお願いで
す。年が明け、回数は限られま
すが面会の許可は得ることが出
来ました。栄養が口から摂取出
来、服薬での治療が可能になれ
ば、あとは施設で回復に向けて
全力で支援に当たろうとスタッ
フ間で強い思いを持っています。
医療に関しては素人ですが、こ
の方の介助、支援においては、
現状では私たちが上回っている
と思います。最新の医療、医療
スタッフの揃う病院ですが、そ
こに私たちも加わらなければい
けないと思うのです。

昨年母を亡くしましたが、コ
ロナ禍で面会が出来ず、容体が
悪化するたびにかけつけるので
すが、病院には入れず、駐車場
の車の中で過ごしました。面会
のない入院生活で認知症が進み、
医療器具を外し、大きな声で看
護師さん呼び続けた母ですが、
わずかな面会の際、私や弟のこ
とばかりを案じ、穏やかに延々
と話しをしていました。人との
関わりは大きな力です。コロナ



禍だからこそ重要だと思えます。

2月スケジュール

三気の里
 1日(月) 訪問理容サービス
 2日(火) 嘱託医来診
 5日(金) アンパレクレーション
 8日(月) 訪問理容サービス
 9日(火) 意見苦情交換会
 13日(土) わっふる
 パARENTメンター茶話会

15日(月) 訪問理容サービス
 18日(木) 誕生会
 22日(月) 訪問理容サービス
 26日(金) 駅弁ランチ
 BeTREE
 <営業時間>8:00~18:00
 詳しくはインスタで



betree314

『朝のあらた』

世話人 杉本 絹子

「おはようございます」。利用者さんおひとりお一人との朝の挨拶が一日の始まりです。朝食づくりと同時進行で夜間支援員の米村Sによるバイタルチェック。利用者さんのペースに合わせながらも時折冗談を交えるなど、工夫しながら行われています。朝食作りも、利用者さんの健康状態に合わせて減塩や材料の変更を行います。 「ああいい匂い」とキッチンを覗き込むなど、嬉しい後押しに支えられながら、美味しく食べて頂けるように努めています。

利用者さんを仕事に送り出すと洗濯掃除。新型コロナウィルス対策として定時の消毒を含め衛生面に十分な配慮をしながら行っています。これからも、米村Sと協力し合って、“ゆったり” “まったり” とできる、家庭的な温かさを大事に、業務をおこなって行きたいと思っています。

新の玄関先にはご家族のご好意で頂いたお花の寄せ植えプラ

ンターが並んでいます。コロナ禍と厳しい寒さの中ですが、温かく優しく利用者さんを見守ってくれています。



【寄付】

今池 隆則 様
 春野 宗敏 様
 中嶋 久枝 様
 植原 郁子 様
 三気の里家族会 様

【後援会】

須加 原翠 様
 甲斐 真史 様
 成元 佑輔 様
 山本 博文 様
 田中 基幹 様

【物品】

小牧 博典 様
 田中 満子 様
 山本 住建 様
 井上ちえ子 様
 坂田多鶴子 様
 宇都宮建設 様

